「公民対話の機会」対話テーマ

児童生徒の体力・運動能力向上に向けた新たな取り組みについて

所属	教育委員会事務局　教育支援部　学校保健課
概要	新型コロナウイルス感染症拡大以降、子供の運動時間は減少傾向が続いています。また、近年の児童生徒の体力値は概ね横ばい傾向にあります。スポーツ庁「発達の段階に応じた運動・スポーツ機会の充実プラン」を通じ、課題に対する対策の１つとして、学校体育等を通じた運動意欲の向上を掲げており、本市も総合計画 2028 において「子どもの確かな学力や豊かな心、健やかな体を育み、社会で活躍する力を伸ばします」と施策の１つとしていることから、中長期的な視点の下、体育授業の活性化策の検討を進める必要性があると認識しています。 　具体的には、名古屋市総合計画 2028 成果指標「運動をすることが好きな子どもの割合」を令和 10 年度目標値「小学校 66%（現状 61.7%）」「中学校 56%（現状 51.4%）」まで向上させることを目指します。 　施策を進めるにあたっては、予算に限りがあり、効率的・効果的な執行が求められることや、学校行政における従前の発想のみに拠らず、様々なステークホルダーとの連携・協働を通じた新たな発想が不可欠と考えており、公民対話の機会を希望するものです。
意見交換したい観点 や 聞いてみたい点	**○この対話で明らかにしたいこと** 　体育が苦手・嫌いな子どもが「やってみたい」と思える体育の授業をどうつくるか。そして、その取組を市の追加予算に頼らずに続けていく仕組みをどう組み立てるか。この２点について、私たちだけでは思いつかない発想をいただきたいと考えています。 **○求めているもの／求めていないもの** 【求めているもの】 ・運動が苦手な子どもの心理的なハードルを下げ、体育を好きになるきっかけをつくる仕掛け ※手段は問いません。子どもが自分の変化に気づける工夫、教員の指導や授業づくりを支える仕組みなど。 ・一度きりで終わらせずに継続させるための事業の組み立て （次ページへ続く）

	【求めていないもの】 ・アスリート派遣などのコンテンツ提供（既存事業と重複するため） ・体育の授業に結びつかない、スポーツ振興を目的とした取組 ※「スポーツ振興」ではなく「学校体育」です※ 今回の対象は、教育課程に位置づけられた体育の授業（学校体育）です。すべての児童生徒が受ける授業そのものを、どう変えていけるかを一緒に考えたいです。 このため、放課後・休日のスポーツ教室、地域クラブや部活動の運営支援、競技力の向上、大会・イベントの開催など、体育の授業に結びつかない取組をお伺いしたいわけではありません。 **〇具体的にお聞きしたいこと** ①小学校 260 校・中学校 110 校（計 370 校）の体育の授業というフィールドに、貴社はどのような価値や可能性を感じますか。 ②体育が苦手・嫌いな子どもの気持ちを前向きに変えるために、貴社の技術・サービス・ノウハウを授業の中でどのように活かせそうですか。 ③まず 1 校の体育の授業で試すとした場合、どのような進め方・条件（費用、機材、教員の負担、実施時期など）が現実的でしょうか。 ④その取組を続け、他の学校へ広げていくために、どのような費用負担・役割分担が考えられますか（寄付、企業版ふるさと納税、共同実証、貴社側のメリット設計など）。 ⑤学校の授業というフィールドで事業を展開・発展させるうえで、課題や支障になりそうな点は何ですか。 ※この対話は提案の採否を決める場ではありません。まずは可能性と課題を率直に共有させていただく場と考えています。
特に意見交換を希望する業種等	名古屋の将来を担う子ども達の教育に関心がある企業様であれば、特に業種等は問いません。 学校体育というフィールドの性格上、スポーツ関連業種でないと、と思われるかもしれませんが、これまで我々が想定していない業種の方々と是非意見交換したいと考えております。
備考	スポーツ庁の令和の日本型学校体育構築支援事業の事例集 https://www.mext.go.jp/sports/b_menu/sports/mcatetop04/list/1398875_00004.htm 具体的な取り組みのイメージを掴む一助になれば幸いです。